



吹奏楽部の演奏（於 千葉英和高校） 1学期、先駆的に…一人1台タブレット授業 より良い授業をめざしての授業準備

〔9月〕 2学期・実りの秋 ～ 自分を伸ばし、自分の力を他のために役立てよう ～
八千代市立勝田台中学校 校長 丸山 太郎

夏休みも終わり、2学期が始まりました。保護者の皆様には、日頃より、本校の教育活動へのご理解・ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

「夏休みのしおり」には、「意欲に満ちた人に！」と題し、「何かに向かって努力する、何かに挑戦する、これは、人間のもつ素晴らしい能力の一つです。皆さんの年頃で大切なことは、『これをしよう』『これをガンバロウ』『こうなりたい』と【意欲に満ちた人】になることなのです」と綴らせていただきました。夏休み、【意欲に満ちた人】になるために、何かにチャレンジすることができたでしょうか。

「何かに向かって努力する」「何かに挑戦する」といえば、この夏休み期間中に、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。努力や挑戦に、アスリートたちの想いを感じ、「自分も頑張らなくては」と、アスリートたちの想いに応えようと考えた人も多かったのではないのでしょうか。

そのような中、先日、読売巨人軍・原辰徳監督の言葉が、私の^{ごぞろろつぽ}五臓六腑に染み渡りました。

【逆風に強い人か、順風でしか力が出せない人か、その人間の価値になる。】

コロナ禍による行動制限がある中での2学期、いわば、「逆風」の中での2学期の始まりです。しかし、2学期は、「実りの秋」とも言われます。授業、3年生は進路実現へ向けて学習の成果を上げる時、熱血祭（体育祭）・修学旅行・合唱コンクール等の行事、2年生が中心となる部活動・生徒会活動・専門委員会活動、等々…「逆風に強い人か、順風でしか力が出せない人か、その人間の価値になる」、皆で手を取りあって、素晴らしい「2学期・実りの秋」にしてほしいと思います。【実り】とは、【自分を伸ばしていくこと。そして、自分の力を他のために役立てること】です。

さて、始業式の日・9月1日は「防災の日」です。1923年（大正12年）9月1日、関東大震災が発生したことに^{ちな}因み、「防災への意識を忘れないために」と制定されたとのこと。この関東大震災では、190万人の方々が被災し、10万5千人余の方々が命を落とし、あるいは行方不明になったと言われています。

「備えあれば^{うれ}憂いなし（きちんと準備しておけば心配することはない）」と言います。災害による被害を最小限に食い止めるためには、常に「防災への意識」をもち、準備や訓練をしっかり行っておくことが重要です。「防災への意識」とは、具体的には「自助・共助」の意識です。

「自分の命は自分で守ること」＝ 自助・「周りの人と協力して互いの命を守ること」＝ 共助の双方を絶えず意識して災害に備え、いざという時には、進んで行動することが大切です。

「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉もあります。自分の命、家族の命、友達や周りの人の命を守るために、改めて備えをし、ご家族の皆さんで、大きな地震や災害があった時の対応について、しっかりと話し合っただければと思います。

ご家庭・地域の皆様に温かく支えていただいていることに深く感謝しつつ、今月も、お子様の成長を、教職員一丸となり全力で支援してまいります。どうぞ、よろしくお願いたします。